

ウ サンプスギ溝腐病対策について

1 被害状況

本県に広く植栽されているサンプスギ林には、スギ非赤枯性溝腐病が蔓延しており、風折れ等の被害が多発するなど、森林の有する公益的機能が低下している。

千葉県内の森林面積	157,550ha
うち スギ林面積	44,991ha
うちサンプスギ林面積	7,735ha
うち被害林面積	4,181ha

スギ非赤枯性溝腐病の推定被害状況

(単位：ha)

地区別	サンプスギ林面積	被害林面積	被害率
千葉・東葛飾・印旛・香取・ 山武・海匝・長生	5,012	3,724	74.3%
夷隅・安房・君津	2,723	457	16.8%
合計	7,735	4,181	54.1%

※25%以上の被害がある林分を被害林とした。

2 被害対策

被害木の伐採等、被害材の運搬及び伐採跡地の植栽に対して助成を行い、サンプスギ林の再生を図っている。

サンプスギ溝腐病対策事業実績

年度	伐採等 (ha)	被害材運搬 (m)	備考
H9～H16	547	—	
H17～H21	369	—	
H22～H24	52	7,568	
H25	3	1,176	
H26	5	1,679	
H27	12	4,567	H27.10月以降、被害材の木質バイオマス発電燃料としての供給開始
合計	988	14,990	

※伐採跡地の植栽については、森林整備事業による補助 4/10 に 1/10 を上乗せして補助。

サンプスギ

森林研究所では、山武地方で古くから育てられてきた地元でカンノウスギと呼ばれるさし木スギの一品種を「サンプスギ」としている。

幹が、通直（まっすぐ）、完満（太さが一定）という、木材として優秀な性質を持っている。

幹が腐る病気であるスギ非赤枯性溝腐病にかかりやすいという弱点を持っている。



さし木のため成長がそろったサンプスギ林



サンプスギの葉（握ると痛い）

サンプスギ林の分布

- 県内のサンプスギ林の面積は 7,734.7ha、スギ林面積の 17.8% を占める。
- 比率が最も高いのは山武地域で 44.7%。（平成 7 年資料）



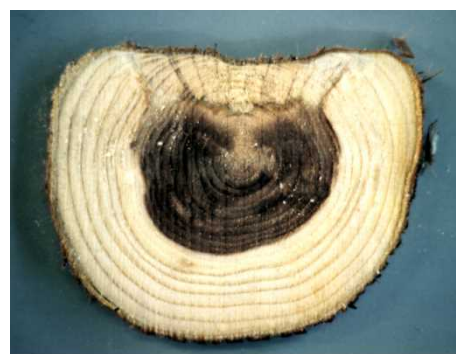
サンプスギの特徴



区 分	特 徴
繁殖方法	さし木による（発根性が良い）
成 長	早生型（初期成長が良い）
材の性質	通直、完満であり、断面は正円に近い
材 色	淡紅色で美しい
枝の性質	細く枯れ上がりが早く自然落枝しやすい
樹冠の形状	樹冠（クローネ）の幅が狭い
針葉の形	先端が鋭く握ると痛い

スギ非赤枯性溝腐病

- 1960年代茨城県南部で被害報告
- チャアナタケモドキという菌が原因
- 菌の胞子が飛び感染する
- サンプスギに被害が多い
- 千葉県では北部に被害が多い
- 材が腐朽し、溝が形成されて幹がゆがみ、材としての価値が失われる



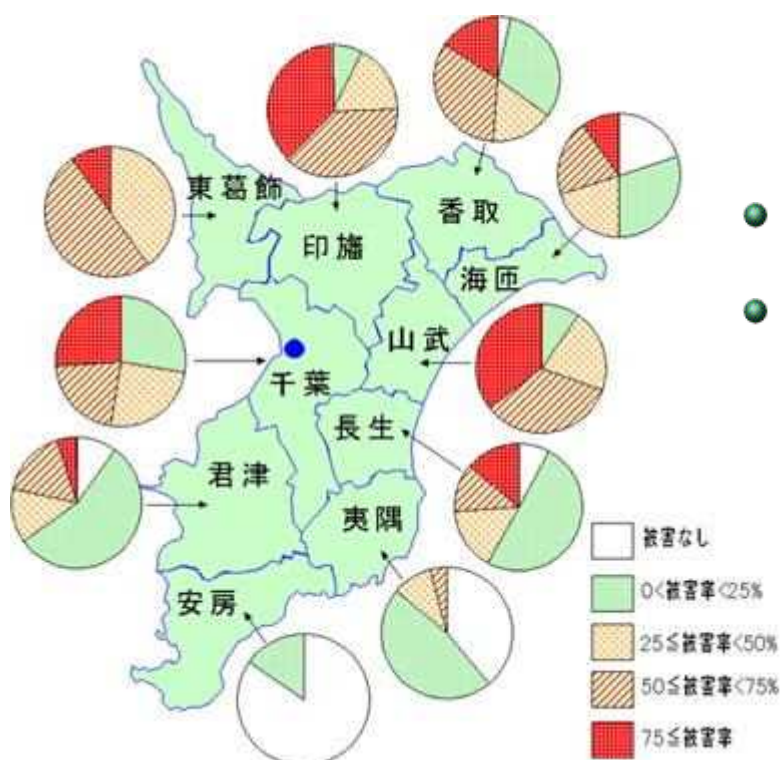
罹病部分の断面



風害を受けたスギ非赤枯性溝腐病の被害林



チャアナタケモドキの子実体



- サンプスギ林の半数以上が、本数割合で25%以上の被害を受ける
- 被害は県北部で多く、山武地域では被害率25%以上の林分が90%近くを占めている
(平成7年資料)